



佐世保市南風崎町の長崎日本語学院（中野はるみ校長、約100人）で5日、ネパール人学生による同国最大の祝祭「ダサイン」が開かれた。ロシアの軍事侵攻でウクライナから避難し、近くの長崎国際大で学ぶウクライナ人学生も参加し、交流を深めた。

ダサインは秋の収穫期の15日間に及び、絆を強めるため家族や親族が集まる。同学院では約8割をネパール人学生が占めており、学

ネパール人学生たち 母国の祝祭を楽しむ

佐世保の長崎日本語学院

院と運営会社の南風崎MGレチデンス（本岡吉彦社長）が初めて実施した。他国の学生には異文化体験の場として参加してもらった。

学生たちは額に朱色の「ティカ」を施して祝福。ネパールの音楽をかけて歌や踊りなどを楽しんだ＝写真。ウクライナ人学生たちもティカを付けてもらい、あいさつの言葉「ナマステ」と声を掛け合い、触れ合いを楽しんだ。

（庭木香充）